平成 30 年 8 月 10 日

患者さん及び地域住民の皆様へ

独立行政法人国立病院機構
関門医療センター院長

抗悪性腫瘍剤の過剰投与報道について

この度、報道されましたとおり、当院において、入院中の患者さんに対して抗悪性腫瘍剤テモダールを過剰投与し、その結果、汎血球減少が回復せず、全身状態が悪化し、患者さんがお亡くなりになるという医療事故が発生しました。

持参薬に抗悪性腫瘍剤が含まれている診療情報の確認不足、当該薬剤に関する服薬方法、副作用等についての知識不足などが要因として考えられます。

大変遺憾なことであり、亡くなられた患者さん及びご家族に心からお詫び申し上げるとともに、深く陳謝いたします。

今後、医療安全確保の観点から、今回の医療事故の原因を明らかにするため、外部有識者を交えた医療事故調査委員会を立ち上げ、調査、分析をすすめ再発防止に努めて参ります。